

令和3年度第3回青梅市移住・定住促進プラン策定懇談会会議録（概要）

- 1 日時 令和3年11月22日（月）午前10時00分～12時18分
- 2 場所 青梅市役所 議会棟3階 大会議室
- 3 出席懇談会員  
山本懇談会員（座長）、西浦懇談会員（副座長）、ノートン懇談会員、  
奥菌懇談会員、土方懇談会員、若林懇談会員、片山懇談会員、南谷懇談会員
- 4 欠席懇談会員  
なし
- 5 傍聴 1名
- 6 議事  
協議事項  
(1) 青梅市移住・定住促進プラン（素案）について  
(2) その他

（配布資料）

資料1 青梅市移住・定住促進プラン（素案）

| 発言者  | 会議のてん末・概要   |
|------|---|
| 事務局  | <p>(開会)</p> <p>(1) 青梅市移住・定住促進プラン(素案)について<br/> (青梅市移住・定住促進プラン(素案)について、資料1を用いて説明)</p>   |
| 座長   | <p>御質疑や御意見等、発言をお願いします。</p>  |
| 懇談会員 | <p>移住・定住促進プランが充実してきたと思う。青梅市の魅力を高めることで、移住者に来てもらうということだろうが、そのためには他の施策とも連携が必要だろう。計画を作って終わりにしないで欲しい。関係部署が一堂に会して、関係部署の施策のKPIも含めて議論して進めていくような、そういう関係性も大切。</p> |
| 座長   | <p>青梅市の各施策とリンクしていく資料が作れないかということでしょうか。ここに書かれているだけではなく、施策は他にもあるのだろう。また、進展させやすい施策を載せておくと安全だろう。</p>   |
| 懇談会員 | <p>進捗管理は重要性が高い。進捗管理のための目標値が、独り歩きして、市が責められてしまうことはあるかもしれないが。</p>  |
| 懇談会員 | <p>素案12頁のアンケートの結果の中で、住み続けたい理由と住み続けたくない理由の、「人間関係」や「子育て」のそれぞれの満足度がひっくり返ると良いと思う。そして、この資料を見ると、青梅市もやる気になったと思っている。おもてなしの機運を理解してもらうためには、市民活動推進課なのだろうか。</p>     |
| 懇談会員 | <p>定住者にも良いなと思ってもらえる形が良いと思う。お試し生活の取組についてだが、既存の宿泊施設以外に、お試しできる住宅で、長期間のお試し生活も実施してみると、移住希望者により理解してもらえるのかなと思った。</p>   |
| 座長   | <p>お試し住宅を設けるのは、コストの問題もあるだろうかと思う。また、長い期間のお試し生活の取組をやっているところはないように思う。</p>  |
| 懇談会員 | <p>長い期間やっている自治体も複数ある。移住希望者のお試し生活専用のお試し住宅を自治体が運営しているような例もある。</p>   |

|      |  |
|------|--|
| 懇談会員 | <p>プランの素案についての感想としては、うまく情報がまとまっていると思う。青梅市がどう変わろうとしているかが分かりやすく、各施策も魅力的に感じる。素案のK P Iで、移住者獲得よりも転出抑制に重きを置いているようにK P Iからは受け取れるが、一方で各施策は移住者獲得に向いている。この部分のK P Iの整合性については気になる。</p>   |
| 懇談会員 | <p>青梅市のホームページは、見栄えが他の自治体と比較して、今はまだまだ至らない。一つは、写真が少ないように思う。また、市全体の公式ホームページじゃなくて、移住専用のホームページで良いので、見栄えのする見てもらえる情報発信は必要だ。なお、空き家の問題だが、死亡届の提出者に空き家バンクを周知するのも良いのではないか。</p>   |
| 座長   | <p>空き家については、難しい問題があるみたいだ。空き家を空き家だと認めない所有者もいると聞いている。青梅市は歴史がある街だから、所有者にとって長年の住宅を手放すことに抵抗があるのだろう。</p>   |
| 懇談会員 | <p>それなら、空き家というネーミングをやめたらいいのでは。名前が浮かんでこないが、イメージが良くないなら、名前を変えてしまえば良い。</p>  |
| 座長   | <p>それも一つだが、私が考えたのは、空き家をコンサルティングしてくれるプロの人を中にいれること。</p>  |
| 懇談会員 | <p>民間事業者が、青梅駅前で空き店舗不動産というのをやっている。こういうのと連携していくといいのではないだろうか。移住施策と重なるところがありそうだ。移住希望者と市民とが、関われるイベントも行われていた。それが、自分が移住してくるときに良かったと感じたものの一つだ。</p>   |
| 座長   | <p>先日、市内でイベントがあり行ってみると、青梅駅周辺は閑散としていたが、勝沼や西分が活性化しているように感じた。イベントの参加者も、そっちのエリアのほうで歩いていたように見受けられた。実際に、イベント活動をしている人たちとの連携は重要なのだろう。ここで、他の懇談会員からの指摘もあったK P I等について整理したい。K P Iを素案の19頁で挙げているが、この数字の根拠が必要だということ、どの施策の積み上げなのかということ、これらが必要だという議論だ。また、移住・定住施策全般のコントロールに、市長が命令を下してすぐ動ける課、国で言うと内閣府みたいなところが入ってくると青梅市も本気だと思えるのではないだろうか。それで</p> |

|      |  |
|------|--|
|      | 良いか。   |
| 懇談会員 | はい。  |
| 座長   | 市のほうはいかがか。   |
| 事務局  | 全体をどうコントロールしていくかということだが、移住・定住については、市の事務分掌規則からして、住宅課が第一義的に行っていくものである。他課を巻き込んでいくことの指摘については、事務局としてもその通りだと考えている。また、本プランの位置づけは、素案の1頁にあるように「まち・ひと・しごと総合戦略」の市全体の総合的な施策を、移住・定住に特化した形で補完するものだ。なお、この「まち・ひと・しごと総合戦略」の主管である企画政策課と移住・定住の主管課である住宅課との連携は、特に必要と考えている。  |
| 座長   | 青梅市も長期計画を策定しているが、そういうものとの連携が必要なので、そういう関連が見たいということで、良いだろうか。   |
| 懇談会員 | はい。  |
| 懇談会員 | 先ほど、写真でアピールという話があったが、写真があると自分がそこにいることが想像できるので良いと思う。岩蔵温泉でイベントを行った際に、青梅市在住の方でイベントの企画やデザインを行った。そのイベントは参加者から好評だった。青梅市在住のこういう能力ある方々を活用できると良いと思う。また、素案のキャッチコピーの青梅なら実現できるMy Home My Ome というキャッチフレーズだが、中々良いと思う。マイが自分らしさという多様性を肯定する意味合いが打ち出されているように感じられる。そして、HomeにOmeが入っている。それにより、青梅がホームなのだと感じさせてくれた。 |
| 座長   | 岩蔵温泉も含めて、青梅市の見どころを考えたほうが良い。ホームページにそれが出てくるスタイルが良い。先日、私が蔵造の家の写真を撮っていた際に、見どころが沢山あった。そういう見どころある建物の写真も青梅市のPRになると思う。また、皆さんは、お気づきだろうか。青梅街道を歩いていくと、勝沼のところから西分にかけてのところだが、歩道から路地を見ると、青梅線が走っている。青梅線に直角に入る路地がいくつもあがるが、その   |

|             |   |
|-------------|---|
|             | <p>路地を見るとおもしろい。何が面白いかというと、鳥居がある。路地に入るところに鳥居が建っており、その鳥居から青梅線を越えて小山になっているが、そこを越えた先にまた鳥居がある。つまり、何が言いたいかというと、青梅線ができるまでは、参道のようなものだったのだろうと。これは、大変懐かしい街並みだと思う。こういうのが、青梅市のPRに使われていない。路地を見ていくと、向こう側にお寺が見えたり、石段が見えたりする。この路地の魅力が青梅の魅力。さらに、そこに自然もある。自然とお寺とあるというのは、中々に面白い。そういう街並みを写真にして、岩蔵温泉も含めてホームページでPRできると良いと思った。</p>                         |
| <p>懇談会員</p> | <p>素案の3頁の上段の人口推計のグラフだが、人口減少を強調しているの<br/>で、青梅市が著しく衰退していくと見えてしまう。グラフが始まっている年<br/>よりも前の年代では、青梅市も人口が急増している。今は、人口の増加時期<br/>から減少時期に入ったということだろうと思う。なので、今のグラフが始め<br/>られている年よりも遡った人口が増加している年代から始まると良いと思っ<br/>た。</p>  |
| <p>座長</p>   | <p>そのグラフだが、終わりが2060年まで書かれているからそうになっている<br/>のかなと思う。グラフの書き方を考えるようにということだが、将来推計は<br/>あって良いのか。</p>  |
| <p>懇談会員</p> | <p>未来の将来推計はあっても良いが、もう少し過去の部分も追加したら良い<br/>のではという意見だ。</p>   |
| <p>座長</p>   | <p>過去の古いデータを探せば、作成できそう。工夫してみて欲しい。</p>   |
| <p>懇談会員</p> | <p>この素案のペルソナを見てみると、20～30代。子育て世代とその予備軍<br/>がターゲットだと思う。それならば、その人たちに刺さるブランディングと<br/>キャッチコピーと施策を打つのが必要不可欠。このKPIもその人たちに刺<br/>さった結果達成されるということだ。まずは、ブランディングが重要で、成<br/>功させるためには、ブランディングの方向性がターゲットに向いている必要<br/>がある。簡単に言えば、誰に対してホームページを作るのが大切だと思う。<br/>厳しい言い方すると、温泉等の写真でどうやって他自治体と差別化するの<br/>か。それでは、ターゲットの年代の人たちに刺さらないから、もう一工夫し<br/>て欲しい。</p> |

|      |  |
|------|--|
| 座長   | <p>今の話しは、マーケティングについてだ。マーケティングも大切なことの一つ。本プランでは、ペルソナを設定しているから、ペルソナがターゲットになり得る。ただ、行政は、市全体を考えないといけない部分もある。なので、全体を俯瞰して、万人が良いと思うことと、ペルソナが良いと思うことを進めるのが素直かと思う。今からマーケティングをかけるわけにはいかない。</p>   |
| 懇談会員 | <p>単純に、ターゲット（ペルソナ）のニーズを施策立案者が理解できているかどうか。20代、30代で青梅市に移住を考えている人のニーズを反映させられないと。そうでないダサい形だと響かない。</p>  |
| 懇談会員 | <p>抽象的な言い方をすると、全てを行政がやるわけではなく、民間部門同士でやるのが必要。行政がずっとやるわけにはいかないから、民間部門同士で回っていくためのツボを押しえたい。このプランは、バランスが取れているのだが、一方でさらに進めるための民間部門同士が好循環していくツボが何だろうかということ自分でも見えてこない。</p>   |
| 懇談会員 | <p>農業を始めるにあたって、農業ができる空き家を探している人もいるが、中々見つからない。東京都で新規就農したい人も割といて、新規就農者にとって青梅市は可能性がある地域の一つと思う。</p>  |
| 懇談会員 | <p>田んぼをやっている地域では、川で堰普請というのを行っており、それに来ないと出不足としてお金を徴収されてしまうので、関係者は皆さん来るが、参加者も高齢化してきていることで、実際には動けない。そういう状態なので、若い人たちのボランティアが手助けしてくれており、その場で高齢の農家と若い人たちとで、農地を貸すから農業やってみないかというマッチングが行われている。こういう状態が青梅市内の各所であるように思う。農家が高齢化してきているが、農業をする場所はあるのではないかと思う。</p> |
| 座長   | <p>農業をするのに、ネックになることは何か。</p>  |
| 懇談会員 | <p>ネックになるのは、農業をするために適する住まいだ。軽トラックを駐車し、作業できる場所、野菜を洗える場所があるような農家的な一軒家が理想で、安い空き家が良い。また、借りている農地で、そういう設備を整えるのが難しい。</p>  |

|      |   |
|------|---|
| 座長   | 空き家の中でも一戸建てが良いということだが、1,000件くらい空き家があるから、そういうところもあると思う。                      |
| 懇談会員 | 少なくとも、小曾木地区や成木地区では、空き家だろうというところはあるが、市場に流通されていない。                            |
| 座長   | 出してくれないというのは、置いておいて。農業をするのに適している空き家というものはあるのか。構造上の問題で適している空き家はあるのか。         |
| 懇談会員 | 農地を持っている空き家というのは、あまり見当たらない。   |
| 座長   | 農地を持ってなくても良い。   |
| 懇談会員 | 庭があれば良いという意味か。  |
| 座長   | 単純に、野菜が洗えれば良い。  |
| 懇談会員 | そういう空き家はある。物理的というか構造的には。  |
| 座長   | 農業をするには、一戸建ての空き家が良いのか。  |
| 懇談会員 | そうだ。しかし、洗うだけではなく、機械を置いたり、収穫した野菜を置いたり、種芋を置いたり、畑に置いておけないものを置けるような場所ではないとならない。 |
| 座長   | 保管できる倉庫があれば良いのか。  |
| 懇談会員 | それでも良い。   |
| 座長   | それなら、探せばあるのではないか。   |
| 懇談会員 | 小曾木地区でも一戸建てだと借りるのに最低でも月額6万円から。そうすると費用面でハードルは高いと思う。                          |
| 懇談会員 | 特に新規就農者は、最初のうちは収入が低い。青梅市の土地の地形から、農地は広くない。そうすると、狭い農地をいくつか借りて農業を行うしかな         |

|      |   |
|------|---|
|      | く、すると、だいたいの収入は見えてくるが、月額6万円も賃料を払うのは難しい。2万円や3万円くらいでないといと収支の面で厳しい。   |
| 座長   | そういうところの支援が必要だという話なのだろう。  |
| 懇談会員 | 新規就農者の事業開始時期に、行政の支援を行うことで、その新規就農者が成功してくれれば良いが、そういう事例ばかりでもない。支援の原資は税金なので、その辺のバランスが難しい。   |
| 座長   | 農地を借りることができる面積について、これは法的な問題なのか、貸す側の問題なのか。   |
| 懇談会員 | 面積を広く借りられないというのは、土地一か所の面積自体が狭いという意味だ。今、直面しているのは、既存の農家と新規就農者の競争激化だ。既存農家がさらに収益上げるために農地を探しているし、新規就農者も農地を探しているということで、競争が増しているということ。土地自体が良い状態で借りられるところが少ない。  |
| 座長   | 今後の取組として、住まう住宅をどうにかしないとイケない。安く借りることが出来て、農業ができるような住まいに取り組むべきだろう。なぜ、これをしつこく言っているかということ、転出者の多くは20代。多くの20代は、勤め先が23区内で、通勤通学が難しいという問題がある。そこで、農業をやりたいという若い方が増えているから、市内に土地はあまりないとしても、青梅市で出来ないかなと考えている。もう一点は、植物工場的な考え方だ。水耕栽培などはどうなのだろうか。 |
| 懇談会員 | 水耕栽培も可能性があると思っている。元々は漬物工場や梅の加工場だった場所で、空いているような大きな工場や土地を借りて行えばできなくはないと思っている。   |
| 座長   | レタスは簡単だろう。また、単価が高いのが良い、花卉類とか。   |
| 懇談会員 | 花卉だと農地になってくる。   |
| 懇談会員 | 法人化して、資本を集めて農業を行うという選択肢はないのか。   |



|      |  |
|------|--|
| 懇談会員 | 植物工場は、企業単位になるので法人化に適しているだろうが、狭い面積の農地でとなるとどうなのだろうか。   |
| 懇談会員 | 法人化することで、機械を置いて洗って出荷する設備を一人ではなく、10人の農家で集まって使えるような形で農業をやるのを、市が創業支援したり、クラウドファンディングやってみたりして、資金調達をする場を作っていくのはどうだろうか。   |
| 懇談会員 | 良いと思う。個人の資金で設備を整えるのは難しいので、集約するのは良いだろうが、そうなる農協的になってしまう部分もあるのだろう。  |
| 懇談会員 | 経験や知識がある方と農業やっている方とをマッチングするのも素晴らしいのでは。   |
| 座長   | 日本で、なぜ法人の農業がないのかというと、農地法があって、それとの兼ね合いが大きい。なぜ、農家がこれほどまで高齢化してしまっていて、農業に若者が参入してこなかったのかというと、この背景がある。そこをどうクリアするのが課題だ。デジタル田園都市国家構想を調べているのは、農業に風穴を開けるのかと思っているからだ。実際に、スマート農業という提案が、デジタル田園都市国家構想の中であった。法人化するやり方はいくつもある。いろんなやり方があるが、具体的に農地に活用できるというところまで持っていけると良い。 |
| 懇談会員 | 民間部門同士でつながれるプラットフォームがあると良いのだろう。また、最近の若者は健康志向に変わってきている。健康重視で、食べ物に気を付けているからこそ、農家とつながりたいというニーズが増えている。移住してくる人にとって、青梅市は、農家とつながれるという魅力がある。産直などの意味だ。これが生活の質の向上につながりそうだ。   |
| 座長   | 今、まちの駅というのがある。もう少し、そういうのが展開していくといいだろう。まちの駅は、国土交通省がやっている道の駅から来ているのだろうが、この道の駅は大成功している。あの手法だ。あの道の駅の手法が活用できないかということ。そうすると観光業とも連携ができる。なので、道の駅的な発想が取り入れられると良い。色々なものが売れるようになる。また、民間部門同士がうまくつながっていくには、目標がないとできない。そのため、目標設定と環境が重要だ。20代が青梅市から出ていくのは仕事が             |

|             |  |
|-------------|--|
| <p>懇談会員</p> | <p>ないから。なので、仕事をこちらで作る。スタートアップ企業がどんどん作られていく環境づくりが大切。シリコンバレーまでいかなくとも、明星大学の学生がスタートアップ企業やろうと思ったら、ここで出来る。高崎市は、それを一生懸命やっている。高崎市は、市立大学があり、その大学が街の活性化に携わっていて、学生が街のラジオ放送をやるなどしている。明星大学は、青梅市に一番近い大学なので協力していくといい。若者の感覚とやる気、先生の指導が合わさると色んなことできる。</p> <p>若者のニーズの話しでいうと、道の駅は集約的でピラミッド型だが、求められているのは個の集合のフラット型だと思う。必要なことがあるから集まってやるというタイプの関係性で、自分がこういうのをしてみたいから、集まってやってみるという感じ。全体と個との感覚の違いがある。</p>             |
| <p>座長</p>   | <p>そのとおりだと思う。ITの活用は個。基本的には一点集中型ではなく、アメーバ的に広がっている。今、残念ながら青梅市ではアメーバ的に広がらない。そうすると何かしらのカンフル剤が必要。そのカンフル剤に何が良いかは難しいところだが、高崎市の話しをしたのは、大学と市が連携して、先生が中心ではなく、学生が中心になっていく方法。そういうのをカンフル剤にしてみても良いと思う。すると色んなアイデアが出てくる。大学が中心になっているのは、近畿大学が有名だ。マグロの養殖の例のように。マグロの目玉のところは化粧品の成分になる。そのため、マグロの養殖に化粧品会社が参入していて、近畿大学の学生と組んで、行っていく。学生が宣伝やマーケティングにも入っていくので、近畿大学は志願者数、8年連続で日本一。そういう意味で、明星大学も一緒にやっていていただけるとありがたいと思う。</p> |
| <p>懇談会員</p> | <p>すごく良いアイデアだと思う。一方で、元々住んでいる人を置き去りにしていくのは、良くない。市民の方も巻き込むようにしていくことが必要で、市民が青梅市を良いと思えないと、青梅市が良いとは外に向かって言えない。アイデアを持った学生と市民が関わっていくというのが大事だと感じた。</p>   |
| <p>座長</p>   | <p>難しいが、重要なところだ。青梅市には歴史がある。その歴史があった中で人々が生きてきているので、閉ざされている部分もある。歴史は大切にしていけないといけないが、新しい若者と上手く混濁していけるようなイベントや事業を作っていく必要があると思う。そういうものを計画していくのは</p>   |

|             |   |
|-------------|---|
| <p>懇談会員</p> | <p>いかがだろうか。</p> <p>青梅市には「ちゃん」を名前に付けて呼ぶ文化があると思う。「ちゃん」付けで呼ばれていない、呼ばれているということを新しく来た人は気にする場合もあると感じた。「ちゃん」付けで呼んでもらえないと、まだまだ受け入れてもらっていないと思ってしまう人もいるということだ。もっとも、その文化も少しずつ変容してきているのだろうが。</p>  |
| <p>座長</p>   | <p>青梅大祭で拍子木をやるのは、地域を代表する方なのだと思うが、まだ加入して年数が経ってない、何十年も住んでいるわけじゃないという人が、前回の青梅大祭で拍子木をやっていた地区もあり、青梅も最近は変わってきたなと感じた。</p>  |
| <p>懇談会員</p> | <p>おそらく、その方は、自治会に加入してから、それなりに自治会活動をやっているから出来たのだろう。また、祭り男は1回しかできないので、選抜していくと徐々に人がいなくなってしまう。来て1、2年という人がやることはないが、自治会活動を行って溶け込んでいる方なのだろう。</p>   |
| <p>懇談会員</p> | <p>自治会に入ったら、近所の人に、自治会には入らなかったほうが良かったのと言われてしまった。人々のライフスタイルが変わってきているから、自治会の在り方も柔軟であっても良いのでは。移住者が入りづらい、今の人も継続がづらいという形は良くない。</p>  |
| <p>懇談会員</p> | <p>自治会の課題になってしまうが、自治会加入が少なくなっている。自治会加入については、地域性があるとは思いますが、どこの自治会も強制的に加入して欲しいという話しはしていないと思う。活動内容に納得してもらって入ってもらうようにしていると思う。</p>   |
| <p>座長</p>   | <p>この土地に100年以上住んでいる方たちはいる。そういう人とどうコミュニケーションを図るかなのだろう。これは一つの案なのだが、その解決策が経済なのだろう。みんなで一緒に商売してお金儲けをする仕組みづくりのことだ。昔は、それがあった。かつて林は、共同の土地にある皆の持ち物であり、その林の木を切って炭にして売ってきても良かった。そういう経済というのが地域にあったのだ。その経済というものが、地域の中で、現代でも作れないかという意見だ。例えば、カブトムシを養殖する。卵を買って来る。これを孵化させる。孵化するとカブトムシが出てくる。このカブトムシを林</p> |

|      |  |
|------|--|
|      | <p>に逃がす。そこを地域の人たちが管理して、他の地域からも人が来て、カブトムシを採取してもらってお金を取る。重要なのは、管理運営を地域の人がやる。捕まえ方を子供は分からないから、年配者が教える。遊び方も教える。カブトムシでいかに遊ぶか、いかに飼育するのかを教える。そうすると子供と生産年齢者と高齢者がつながる。経済においてコミュニティが形成される。こういうことを考えていくと、地域でビジネスを行うのは、そんなに難しくない。やろうと思ったらできる。また、例えば、下水を処理した中水を活用して川を作る。そこで、カワニナを養殖する。そこにホタルの幼虫を入れる。そうするとホタルが孵って、ホタルのまちになる。これもビジネスにつながる。いくらでも考えれば出てくる。こういうことを青梅市もやってみるのはどうだろうか。特にカブトムシは簡単にできる。</p> |
| 懇談会員 | <p>ボランティアでサッカーチームのコーチをやっているが、都心からチームが大会で来た時に、都心の子たちからするとグラウンドが広くて環境が良いということで、そういう声を聞いた。また、子育て世代に青梅市を知ってもらうのかということにカブトムシのイベントも活用できそうだ。</p>  |
| 座長   | <p>それでは、時間なので、「(1) 移住・定住促進プラン（素案）について」を終了する。</p> <p>(2) その他<br/>(発言なし)</p> <p>2 その他</p>  |
| 座長   | <p>次回懇談会の日程について事務局からお願いします。</p>  |
| 事務局  | <p>次回懇談会は、2月1日火曜日午後2時からはいかがか。</p>  |
| 座長   | <p>皆様、御都合はいかがか。それでは、次回懇談会の日程については、ご了承いただきたい。以上で、本日予定した案件は全て終了した。第3回青梅市移住・定住促進プラン策定懇談会を閉会する。</p> <p>(閉会)</p>  |